

心を豊かに持ち、  
助け合って暮らすことのできる  
安心・安全なまちづくりを目指します

日野町長 景山享弘

新年明けましておめでとうござ  
います。今年のお正月は天候にも  
恵まれ、穏やかな年始めとなりま  
した。遠くの大山も美しい雪化粧  
で、神々しい姿を見せてくれまし  
た。町民の皆さまには、ご家族お  
そろいで輝かしい新春をお迎える  
ことと心からお慶び申し上げます  
。また、日頃から、本町のまち  
づくりへのご支援とご協力に深く  
感謝を申し上げます。

昨年、国内外で今までに経験  
したことのない程の異常気象が発  
生し、各地に甚大な災害をもたら  
しました。また、たやすい気持ち

で人の命をあやめる残忍な事件も  
多発し、心を痛めました。

何が起るのかまったく予測の  
つかない時代になり、自分のこと  
は自分で守る“自助”の備えを、  
日頃から早めに取り組んでいた  
きたいと思えます。

さて、今年はどうのような年にな  
るのでしょうか。国は経済が縮小  
していたデフレーションから、好  
転に向かうインフレーションへ脱  
却するよう大きくかじを切ってい  
ます。

しかし地方では、なかなかその  
影響が表れていません。さらに貧

2014年  
年頭あいさつ



富の差が広がり、都市と地方の格差も広がる懸念を持っています。

その中で、本町は目先のマネーゲームに一喜一憂するのではなく、心を豊かに持ち、助け合って暮らすことのできる安心・安全なまちづくりを目指したいと思いません。

そのために、人口減少に少しでも歯止めをかけ、これからのまちづくりを担う若者が、夢や希望を持って暮らすことができる町を、安心して子どもを生み育てることのできる町を、町民と行政がともに手を組み推し進めようではありませんか。

そして、後世に負の遺産を残さないことが大切であると思いま

す。私たちの暮らしに必要な不可欠な地球上にある天然資源には限界があります。大切にしなければなりません。

ここで気がかりとなるのが『原子力』の利用です。安全でクリーンなエネルギーと推奨されてきましたが、原子力発電所の事故により、その安全性に大きな疑問が出ています。時間をかけて、安全性が確保されるよう検討されなければなりません。大きな課題に立ち向かう年になるうと思えます。

2014年の年頭にあたり、町民の皆さまが健康で幸せに向かう年になりますよう祈念し、新年のごあいさついたします。

遠くに大山を望むことができる日野町（役場屋上から撮影）